

靈的革命に火をつける

－ 実践マニュアル －

エリック・ワット 著

Igniting a Spiritual Revolution: A Field Manual

by Eric Watt

2001

英語版 : <http://www.strategicnetwork.org/ignite.pdf>

日本語版 : <http://www.harvestimpact.org/library>

目次

感謝のことば 2

序文 3

序文 3

霊的革命の時 4

I ビジョン 7

II チャレンジ 8

III 新しい世代のリーダーたち 10

IV 霊的革命に火をつける 12

V 五つの真理 13

VI 六つの命令 16

VII 七つの原則 20

決断 26

感謝のことば

この書を、私に神のビジョンを見ることを
教えてくれた父、ジェームス・ワットと、
どんな時にもキリストにしっかりとつながることを
教えてくれた母、レイラニ・ワット、
そして主の目的を果たすために私の力と
なってくれている妻、ベッキーに捧げます。

序文

歴史には時季があります。過去の出来事が私たちの視界から薄れていく時、未来がはっきりと見えてきます。

今、新しい時代の夜明けが世界中で始まっています。世界の人口の半分以上が25歳以下であるという現実が、古い体質からの脱却を余儀なくしています。

新たな世代のクリスチャンたちは、新しいビジョンとその具体的な方向を必死で求めています。私たちは過去の素晴らしい遺産から学ぶと同時に、長い間、教会の前進の妨げとなってきたものを退けたいと願っています。

この本には、ビジョンと計画が書かれています。ビジョンとは、イエス・キリストとその御座のまわりで教えられない多くの者が礼拝を捧げる光景です。計画とは、全ての信者が聖霊の力で満たされ、大宣教命令を達成するため一步一步着実に実践する道を指すこのマニュアルに説き明かされています。

あなたも私たちといっしょに霊的革命の火つけ役になろうではありませんか。

エリック・ワット

2001年4月

霊的革命の時

私たちは革命家のネットワークに属しています。

この革命家は自分の命を危険にさらしても、
イスラム教徒の村に福音をたずさえていく者たちです。

彼らは北京の通りで福音を語り、
その夜休む場所を求めながら、祈る者たちです。
イランでイエスの証しができるように、隠れて暮らす者たちです。

また、人々をイエスのもとに導くために、
ブルキナファソの村々を自転車で巡回する者たちです。

医療技術をもって中央アジアに派遣されて、
教会開拓の増殖ムーブメントを始める者たちです。

私たちは革命家のネットワークに属しています。

大きな犠牲や迫害にもかかわらず、
抑圧的な政府に立ち向かう者たち。

教会のリーダー30万人を育て、インドの87の町や村に
キリストの福音を伝えるために必要なあらゆる訓練を提供し、
数千の子どもたちを助けるプロジェクトを指揮する者たち。
1年間に7億もの人々にイエスを語る者たちです。

私たちは革命家のネットワークに属しています。

この革命家は地獄を追い払うために、祈りながら
料理や掃除をし、苦しんでいる子どもたちの世話をします。
悪魔の力が過ぎ去るまで、寺の敷地を歩きながら祈る者たちです。
王や支配者を恐れることなく語り、人の目に目立とうとはせず、
全てを捨ててイエスに従う者たちです。

私たちは革命家のネットワークに属しています。

暗闇に入って、光をもたらす者たちです。

戦場において、いのちを回復させ、
モスクの中でイエスを礼拝し、寺で福音を語り、
敵の要塞を打ち壊し、悪魔を震えあがらせる者たちです。

私たちは革命家のネットワークに属しています。

私たちは生きているけれども死んだものであり、
現状のまま生きるよりは
革命のために命を捨てても良いと覚悟する者たちです。
自分の命は自分自身のものではないと信じる者たちです。

私たちは革命家のネットワークに属しています。

私たちの最高司令官はイエス・キリストであり、
導き手は聖霊です。

私たちの力はただ神からのみ来ます。

私たちは、学校、家庭、町や村、国々を霊の目で見ます。
私たちは、人々を私たちの王なる神のもとに連れ帰ります。

力によらず、自己犠牲によって。

群衆を魅了するのではなく、十字架を背負うことによって。

私たちは、名もなく、人から認められることもなく、
ただ一人の方、イエス・キリストに仕えます。

革命か死か。

私たちは代弁者以外の何者でもありません。

あなたもこのネットワークに加わるよう、お招きします。

私たちは何年もの間、先達がしてきたのと同じように、
彼らの影の下で静かに働いてきました。

私たちは、今、報酬を受けることを先に延ばしています。
それを天の御国の王にささげることができるように。

今、何が私たちの心をこのように燃やすのでしょうか。

霊的な革命を促す、この抑えられない情熱は何なのでしょう。

それは私たちの永遠の救い主に対する愛であり、
天国で大勢の人々と共に礼拝をささげるビジョンです。

私たちは、真の神の御座が見えないほど高く上げられ、
数え切れない多くの人々がそのまわりで共に礼拝をささげる、
私たちの想像を超えた大きな新しい世を見ます。

何十億人もの演奏する者たち、歌を歌う者たち、

踊りを踊る者たち、ほめたたえる者たち。

みな、王の王を賛美するために永遠の合唱団に加わっています。

私たちはそのビジョンの実現を切に求めます。

全ての人がそこにいることを願います。

それを拒否する人々がいることも知っています。

しかし、イエス・キリストの福音について一度も聞いたことが
ないためにその場にはいない人々もたくさんいることは、
大変悲しむべきことです。

なぜなのでしょう。

彼らが一度も聞くことがなかったのは、

だれも語る者がいなかったからです。

今に至るまで、だれも遣わされなかったからです。

霊的革命が必要です。

私たちは、神の時のために立ち上がっています。

神の嵐が今にも起きようとしています。

変化が起きています。

やがてある日、全世界は聞き、そして知るでしょう。

すべての人はひれ伏すでしょう。

私たちは共にこのお方に礼拝をささげるでしょう。

I ビジョン

それはパトモス島で始まりました。使徒ヨハネは、天の啓示と教会にとって大切なビジョンを受けました。「その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの杖を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。『救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。』」(黙示録7：9－10)。

これは私たちが夢に見る、終わりの日のビジョンです。想像を超えた大きな世界が生き生きと描かれています。数え切れないほどの人々が御座のまわりに集まり、王の王に絶えることなく賛美を捧げています。何百万ものアフリカのドラムをたたく者たち、中国の弦楽器の奏者たち、アラブの歌い手たち、アメリカのギターの演奏家たち、イギリスのフルートの奏者たち、ロシアのダンサーたち、さらには何十億人もの聖歌隊も集まっています。彼らの証しは終わることがないでしょう。

このビジョンは、単なる空想ではありません。暇な時に思い巡らすだけのものでもありません。私たちの全ての力と、持てるものと、時間とを必要とします。

今日、多くの人々は、この素晴らしいビジョンから目をそらし、世俗的で活力も変化もないものに目を向けています。彼らのように現状の中で自分の役割に満足している人々を、私たちは説得しようとしているわけではありません。

一方で、もっと熱く、意味のある人生を生きたいと飢え乾いている人々もいます。私たちの目的は、彼らのように自分ちと同じ心を持つ人たちに、リーダーシップと方向性と燃料（進んでいくための力）を与えることです。

私たちは英雄になることを求めてはいません。私たちは僕にすぎません。権威のある資格や栄誉ある称号を持っているわけでもないのです。

自分たちが一番の適任者でないことを知っています。しかし、これ以上待つことはできません。私たちの時は来ました。いつか御座の前に立ち、王なる主の前で自分がしたことを報告しなければなりません。

霊的革命を始めましょう！

II チャレンジ

今日、キリストの教会には約18億人のバプテスマを受けた信徒がいます。約33億の人々は、何かの形で福音を聞いたことはありますが、イエス・キリストを主または救い主として受け入れてはいません。

その一方で、キリストやキリスト教、あるいは福音について聞いたことのない人が16億人以上も存在しています。それはクリスチャンの人口とほぼ同数です。聖書には「神はご自身のことをあかししないでおられたのではありません。」(使徒14:17)と約束されています。しかし、私たちの知るかぎり、何千もの国々、民族、何千という言語を母国語とする人々が、キリストのことを一度も聞いたことがないゆえに、御座の前に立つことがないのです。

残念なことに、かつてキリスト教を受け入れた国々(北アフリカ、エジプト、インド、イラクなど)でさえも、政府の反対や宗教的摩擦などによって、福音が奪い去られてしまいました。過去において、何世代にもわたって世界中に福音を伝えようとする努力がなされてきました。今度は、私たちの番です。自分たちの責任として、与えられている機会を前にひるむべきではありません。私たちには人材と資力が 있습니다。世界的に見て、毎日500万人のクリスチャンが人々の魂を勝ち得るために働いています。毎日12万2000人が新しくバプテスマを受けて教会につながっています。500の教会が新しく始まっています。4100万ドルが海外宣教のために捧げられ、1200万冊の聖書や分冊聖書が配られています。様々な伝道プロジェクトによって、数千万から数億の人々に福音が伝えられているのです。

けれども、世界中のクリスチャンによってこのように素晴らしい成果が挙げられ、福音伝道に勢いが出てきたにも関わらず、私たちのビジョンは実現されることなく、20世紀が過ぎて行きました。

それはなぜでしょうか。私たちはこうした過去から、将来のために何を学ばなければいけないのでしょうか。

最も大切な課題のひとつはおそらく、神から委託されたものをいかに管理するかという管理責任(スチュワードシップ)の問題でしょう。世界的な好景気の中にあって、多くのクリスチャンが自分のことしか考えず、福音が伝えられないままにいる人々の差し迫った必要性については無視してきました。

良いことが何もなされなかったというわけではありません。科学、技術、健康管理、そして平和の分野では計り知れない発展がもたらされました。しかし、私たちが真に正直になるならば、莫大な資源が個人的な野望のために押さえ込まれ、利己主義や罪

によって間違った使い方をされ、そして、無関心ゆえにそれらを最も必要とする人々には使われないままであったことを認めざるを得ません。

これは悲しいことですが、真実なのです。本来、20世紀には偉大な計画がありました。しかし今日の教会は、前世紀以上に傷つき、失敗し分裂して、新しい千年期に入っています。私たちはこの世の人々の必要性を見ることをおろそかにし、教会内部の意見の相違ばかりを見ていたのです。

教会において信徒を養うことや弟子訓練をやめるべきだということではありません。しかし、同時に「わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。」（ヨハネ10：16）という救い主の優しい御声を聞かなければなりません。私たちは、まだ福音を聞いたことのない人々や助けが必要な人々、忘れられた人々、失望した人々、まわりの救われていない人々に対し、私たちの霊的な責任を果たすべきです。

ビジョンが現実のものとなるためには、新しい大胆な方向が示される必要があります。ゴールは目の前にあるのに、いまだに16億もの人々がキリストを知らずに希望のないまま放置されている状況が続けるべきではありません。過去から学ぶことがたくさんあります。そして、私たちの前には機会とそれに必要な資力が 있습니다。

荒廃した世界のあちらこちらから、新しい世代が現れてきました。傷ついた者たちを癒す残れる者たち（レムナント）の軍隊、イエス・キリストに自分を捧げ、イエスの名のために喜んで犠牲になる者たちです。神は福音が届けられていない人々のために、様々な国や民族から私たちを選び、礼拝とイエスとの交わりにおいて、私たちの心を一つに結びつけました。

私たちは、何がなされるべきかを知っています。

問題は、「私たちがそれを実行する意志を持っているか？」どうかということです。

III 新しい世代のリーダーたち

1970年代から1980年代には、イエス・キリストの再臨の日のために生き、自分の思いを超えた神の働きの召しを受けとめた、新しい世代のリーダーたちが現れ始めました。

主は、世界中のあらゆる未伝道のところにキリストをのべ伝えるというビジョンをお見せになり、それが可能だと信じることができるよう、私たちの目を開かれました。もしかしたら、これはあなたのことであって、あなたも私たちの一員なのかもしれません。

この日に対する準備は、神が特別の方法で私たちに与えました。私たちの多くは、ぬぐい去ることのできない傷や痛みを負ってこの世の生活に耐えてきました。しかし、私たちは、良い関係を持つこと、正直であること、信頼し合うことなどを大切にし、生き残ることを学びました。癒しについて、和解について、実践的に行動すべきことについて、また、私たちを導く霊的な親の必要性について、多くを学びました。

この新しい世代のリーダーたちは、自分たちの間の交わりを最も価値あるもののひとつと考えています。私たちは、同じビジョンのもとにお互いに仕え合っているのです。仕事や肩書き、神学的教理の立場、教団教派などは決して優先しません。私たちは、最新の道具を用いるコミュニケーションでこの関係を深め、さらに一層の献身を可能にしています。私たちの交わりは、巨大なネットワークの力によって実を結んでいます。同じビジョンと召しを共有することにより、10/40ウインドウのあちらこちらに、組織、教派、仲介機関を超えた世界的なネットワークが、知識、経験、機会を通じて開花しているのです。

神の召しとビジョンに対する情熱は、組織の力ではできなかった方法で、私たちを一つにしています。私たちを一つにする中心は礼拝であり、私たちの行動の源となる、キリストとの命あふれるデボーションです。私たちは、最初にこれを共に経験し、お互いに学び合い、さらに将来に向けて共に手を取り進むのです。

私たちにとって最も大切な奉仕は、御座のまわりで捧げられる礼拝のビジョンを結果として求める働きです。個人のために福音が語られることや、人々のためにチャーチ・プランティングがされることは、単に始まりにすぎません。私たちは、自立した、かつ世界的にお互いを支え合えるチャーチ・プランティング・ムーブメントを発展させていくため専心します。これが私たちの主への礼拝行為そのものなのです。

20世紀末の宣教拡大運動では、良い雰囲気の中で私たちは指導者として成長し活躍することができました。私たちは、先達の経験から得た知恵を用いて新世代の熱心

生き生きと育てることが神の望みであると知っています。先輩たちには尊敬の念を持ってアドバイスやカウンセリング、そして知恵を求めます。しかし、使い古された方法に従っていくことはありません。

私たちはもはや、現存する組織を引き継ぐことに興味はありません。まだ福音が伝えられていない人々に対する光りとなる、新しい道を築きたいのです。

私たちは、神学や教義、また立場によってではなく、御座から与えられたビジョンによって導かれていきます。全ての人は、子羊イエス・キリストの前で礼拝をささげる機会を与えられるべきである、ということに徹底的に努めます。

この新しい千年期において、やがて私たちに神が備えた時がきています。自分たちがこのために召された、という機会に出会います。その後で神の御前に立つとき、私たちはどのように言われるのでしょうか。「与えられた機会を真剣に受け入れなかった。」「責任逃れをして、福音を知らない何百万もの魂を滅びるままにしておいた。」そのように言われることは、絶対に耐えられません！

私たちは、中東の焼けるような砂漠で足の裏を焦がすことを厭いません。病人たちの間に自分の皮膚をさらす危険も喜んでします。チベットの山々で手足を凍らせることも構いません。あざ笑う言葉や、石で打たれるような痛み、火のような熱さ、釘を刺し通されるような痛みを受けても、怯みません。もしも私たちが希望を失った子供たちを見つけ、その涙を拭い、冷たい一杯の水をあげ、福音を伝えることができるのなら、無人島の乾いたほこりだらけの土に殉教者として血を流すようなことがあっても、それを喜びます。

問題はこの霊的革命を「どのようにして？」ということです。

IV 靈的革命に火をつける

今までと同じことをただ繰り返してはいけません。通常の方策や少しずつの成長を目指す方法では、この任務は絶対に果たせません。もし、主が地上の全ての民族から誉れ、力、主権、権威を受けるにふさわしい方であるならば、何かが変わらなければなりません。

私たちは、キリスト教界の大規模な変革を呼びかけています。その思いは、決して変わりません。そして、全ての信者が同じ思いを持つことを願っています。私たちは、世界的なリニューアルがはっきりと目に見える形で起こり、世界中の人が、歴史における新しい時代が来たと言えるようになることを、切に願っています。

靈的革命は、まず私たちの内に始まり、そして、世界中に野火のように広がっていくべきです。このビジョンを達成するために、私たちは、自分自身が楽しめるもの全てを制御する道を選びます。それは、全ての人が主を楽しむことができるようになるためなのです。

どのようにしたらよいのでしょうか。私たちはキリストが示された真実に従って生きます。イエスの歩みに合わせて歩き、御国の原則によって導かれていきます。

V 五つの真理

全ての革命には理由があります。私たちの理由はイエス・キリストであり、それ以外の何ものでもありません。

私たちは、霊的な先達から伝えられてきた聖書の真実に基づいて、生活をします。これら五つの本質的な真理は、私たちの日常生活の土台です。

1. 私は、イエス・キリストとその御言葉に基づいた生活を
2. 礼拝のいけにえとして
3. 他の人との交わりにおいて
4. この世に向かって主の証人として
5. イエスのように生きる。

1 イエス・キリストとその御言葉に基づいた生活を

毎日、祈りによって一日を始めます。イエスとの関係を、他の全てに優先します。さらに高い祈りと、神との深い会話を求め、また、神に礼拝をささげる新しい方法を求めます。

私たちのライフスタイルは、神の言葉を中心とし、その上に築きます。私たちは御言葉を熱心に食べ、消化します。私たちはそれを暗記し、調べ、学び、黙想し、日々その真理に従って生きています。

私たちは完全な者ではありませんので、目を完全なるイエス・キリストから離してはなりません。イエスとその御言葉に対する日々の祈りと黙想は、私たちの意思と感情と霊をイエスの姿へと造り変えてくれます。

2 礼拝のいけにえとして

礼拝で最小限要求されることは、自分自身を生ける供え物としてイエスにささげることです。私たちの求めるもの、願い、望みや夢を礼拝の行為として神にささげます。

自己中心的な野望、成功への願いは、もはや私たちにとって死語となっています。自分自身の願いを葬ります。なぜなら、自己が死ぬことによりイエスが私たちの内に生きられるからです。

イエスだけが私たちの導き手です。私たちは、きよい心と汚れのない手をもって礼

拝する自分自身を、生ける証しとしてささげます。

3 他の人との交わりにおいて

私たちはイエスに属するのと同様に、お互いに属すべき存在です。キリストへの信仰と世界規模の霊的革命のビジョンは、私たちの謙虚な心、砕かれた心、正しい意味での弱さから霊的な力が生まれることを信じさせてくれます。

神の恵みと臨在は、私たちが信仰によって共に歩く時、生活の中で大きく成長していきます。人々の益になるため、神の超自然的な賜物が解放されることを経験し、それを日々求めます。

人は、個別に離れている時よりも共にいる時の方が、力強い存在となれます。世界中から集まった私たちは、やがて、全ての言語、民族や国々から共に神の子羊を礼拝し、賛美することでしょう。その時まで、私たちは互いに敬い合い、仕え合うために交わりを持ちながら、キリストにあって共に歩きます。

4 この世に向かって主の証人として

私たちは、イエス・キリストについて見たり聞いたりした事を証しするように造られています。神の臨在を日々経験し、永遠の命の賜物を受けているということは事実です。しかし、私たちの願いは、イエス自身とその御国が世界中に広がることです。そして、それは私たちのためだけではないのです。

私たちは、神の永遠の喜びのために、この世の一時的な喜びを犠牲にします。全ての人々が救い主イエス・キリストを通して神を知るようになる、という私たちの熱い願いを叶えるため、イエスに献身し共に仕え合うのです。

私たちは常に神への礼拝をささげ、自分の生活が神に支配されることを求めます。毎日、神の臨在の中で歩み、真理とキリストにある信仰の力を証して生きています。

私たちの働きは、世界中の人がイエスとの素晴らしい交わりを知る機会を持ったときに完了します。それは、家族や友人に留まらず、地の果てまでメッセージを伝えることを意味します。

私たちは霊的な戦いに加わり、証しの家族として、全ての国で弟子を育て、全ての言語や地域で神の導きに従うことを選びます。中には、福音が何度も語られている地域もあるでしょう。大変にうれしいことです。しかし私たちは、神の国の種が成長して世界中に広がるまでは、満足しません。最後の一人が福音を聞いてイエスさまに従うその時まで、働き続けます。

5 イエスのように生きる

私たちの前に置かれているゴールは、神と共にある永遠の御国と、互いの交わりです。イエスを知り、イエスのように生きるということは、イエスと同じ態度で生活するということです。

私たちは、恥辱や精神的・肉体的な苦痛、迫害でさえも受けることを厭いません。なぜなら、このような最も暗い試練は、魂をキリストの姿へときよめるからです。私たちは、霊の戦いを恐れず、脅迫や中傷、拷問にたじろぐことをしません。

私たちの救い主はイエス・キリストであり、私たちの究極の目的はイエスのようになることです。イエスはこの世に神の道を教えました。ですから、私たちも同じようにします。イエスが苦しみを受けたのですから、私たちも同じようにするのです。

私たちには準備ができています。あえて苦しみを選ぶことはしませんが、イエスを選びます。イエスのようになるためには、どのようなことが起きても受け入れ、他の信者たちと共にイエスのメッセージを分かち合います。

VI 六つの命令

私たちのビジョンは、天の御座のまわりで子羊イエスを礼拝することです。目標はイエスようになることです。私たちの働きは、イエスの歩みに従っていくことです。

私たちは日々、五つの真理に生き、聖霊の臨在と導き、御声を聞くために霊の耳を開きます。

霊的革命には、個人の野望を犠牲にすることが必要です。それは、神の国を伝え広めながら、一生涯イエスについていくという道です。イエスは弟子たちに宣教のパターンを実際に見せ、彼に従っていくことを命じました。聖書のルカ10章から、六つの命令について学びます。

1. 神がどこで働いておられるかを聞き、そこに加わる。
2. 神が全ての必要を満たして下さることを信頼し、従い、信仰によって歩く。
3. 神に飢え乾いた「平安の子」を探す。
4. 「平安の子」と神との出会いを祈り求める。
5. 「平安の子」にバプテスマを授け、従うように教える。
6. 「平安の子」と共に行き、その家族や友人に神の国を伝える。

1 神がどこで働いておられるかを聞き、そこに加わる

宇宙を支配される神は、御子イエスを通して全世界を神のもとに取り戻す働きをしています。神は全能で、永遠に存在される方ですが、とても個人的な神です。神は方策を持っています。私たちは、自分のことを置いて神に従います。私たちの究極の喜びは、偉大な功績から来るのではなく、神の臨在の内から来るのです。

霊的革命は、私たちが自己の利益のために祈ることを捨て、他人のために心から祈ることができた時、私たちの内に始まります。私たちは、神の祝福を自分のために貯めておく容器となるのではなく、それを人々に流してゆく管となるのです。

神は、神自身が動いている場所やその計画を、私たちに熱心に示して下さいます。私たちは神の声を聞く耳を持ち、この世を追い求める罫を避け、神のみに向かって歩く足を持つことを選びます。

私たちは、天にあるようにこの地にも御国が来るよう、日々神がこの世に介入されるよう、切に求めています。私たちは、自らの限界と愚かさを認め、ただ一人の賢い

方、主を全身全霊で礼拝します。主の臨在のもとに来て、礼拝を通して主と一つになり、主の導きが示されることを待ち望みます。

私たちは祈りを通して、神の御霊が動く方向に従っていきます。私たちは、常に良いことをなされる神、混沌から秩序をもたらし、歴史の中で奇跡をもって働いてこられた神を信頼します。

私たちは、神の明確な行動計画を聞くまでは、その前で静かに待ちます。神は、私たちがどこに行くべきか、誰に話すべきかを教えて下さり、私たちの生活や社会の中で、神の栄光を示して下さいましょう。

2 神が全ての必要を満たして下さいと信頼し、従い、信仰によって歩く

啓示が下る時、私たちはそれに従います。私たちは神を信じ、全ての真理に私たちを導くために送られた聖霊を信じます(ヨハネ16:13-14)。

私たちは、聖書の言葉や信者同士の交わりの中で、または祈りによって、神の啓示を評価します。そして従います。

霊的な啓示とは常にイエス・キリストに関することです。それは、日々の生活において私たちが証し人に変えられる、という意味を持ちます。祈りつつ神の御前に出る時、神は御言葉を通し、または夢や幻、心に思い浮かぶ映像などを通し、私たちの霊に語りかけて下さいます。私たちは神とのコミュニケーションを特定のパターンに制限することはありませんし、神の啓示を邪魔することもしません。

神の宣教の働きに加わることほど楽しいことはありません。また、逆に、神が働かれるのを遠くから見ていることほど虚しいことはありません。私たちは、神が与えたビジョンに従うことを、心から決めています。私たちは、そのビジョンが明確になるまで待ち、書きとめることによって誰にでも理解できるようにし、実践します。

私たちは啓示に従います。もしもそれが、赦しを求めることであれば、私たちは謙虚に兄弟姉妹のところに行きます。もしもそれが、私たちの生活の全てを変えるというのであれば、たとえ主の御霊が注がれている町から引っ越すことになっても、その言葉に従います。

私たちの生活は、互いに関係し合っています。ですから、神の啓示の実践は、常に共同体の中でなされます。私たちは、お互いに正しい意味での責任を持つときに、素晴らしい守りと力が生まれることを信じています。

問題が起きたときでも、私たちは、一時的な混乱を避けるために神からの啓示とビジョンを思い起こします。私たちは神の超自然的な備えに頼り、神を、全ての経済的、肉体的、感情的、霊的祝福の源と考えています。

私たちはあらゆる行動を、自分自身の個人的な必要性ではなく、神の啓示によって評価します。啓示に従って進む時、神は私たちの必要を満たして下さることを知っています。

3 神に飢え乾いた「平安の子」を探す

神が与えられる啓示と、神自身のこの世への情熱は、私たちを神に飢え乾いた「平安の子」へと導きます。神に飢え乾いた「平安の子」は、大半は信者ではなく、霊の現実、真理を求めている人で、福音を受け入れやすい、その地域では信頼されている、天の御国の福音を分かち合う影響力を持った人です。神は私たちを、このようなライフスタイルや霊的飢え・乾きをもった人々のところに導いて下さいます。

私たちは、次のように問いかけ、神の啓示を求め、「平安の子」を探します。

- この地域のどこで霊的事柄が話し合われるだろうか。
- いつ霊的事柄が話されるだろうか。
- 霊的雰囲気を作り出すリーダーは誰か。

聖書(使徒10)の中の使徒ペテロと神に飢え乾いた人(コルネリオ)の話のように、私たちも神からの啓示に対して心を開いていなければなりません。ペテロは啓示を受け、すぐにそれに従いました。ローマの百人隊長はペテロを迎え、彼の友人や家族を招き、熱心に福音を聞き、神を経験しました。私たちは、イエスによって傷ついた心が癒され、その証しが町中に影響を与えたという「サマリヤの女」(ヨハネ4)に出会うことも期待しています。

神はあらゆる地域に、神の国の管役となる「平安の子」を定めていると、私たちは信じています。

4 「平安の子」と神との出会いを祈り求める

神が私たちに「平安の子」(コルネリオやサマリヤの女のように)を啓示された時、私たちはこの新しい友人に自分の証しや、超自然的な不思議な業、また神の言葉の力を通しての神との出会いの証しをします。

神は愛の神であり、私たちに良いことをし、私たちを癒し、心を変え、救って下さる神です。私たちは神の話を、自分の生活の中のこととして伝えます。歴史的な事実としてだけではなく、神との出会いの経験として伝えます。

神との出会いの簡単な招きをした後、私たちの中に神の御霊が解放されるように祈ります。神の御声を良く聞き、聖霊の指示と指導に完全に従って行動します。私た

ちは、喜んで祈り、断食し、神がご自身を強く現される時を待ちます。

神に飢え乾いた「平安の子」が、唯一神との出会いや神を知ることが求めた時、私たちは個人的な神との出会いに招きます。その出会いとは、今までの生き方から方向を転換し、ひとり子イエスの御名だけが神への道であると、神に告白することです(2コリント5：17)。

5 「平安の子」にバプテスマを授け、従うように教える

私たちは人生をキリストに明け渡すことによって、私たちの内に新しい霊的性質が造られると信じています。私たちは罪のある者ですが、自分の肉の欲望に死んで、義を選ぶ自由を持っています(コロサイ3：1-2)。

私たちは、イエスを信じ、しっかりとつながっている全ての信者にバプテスマを授けます。バプテスマの時、私たちは心がきよめられるたびに悪に対する勝利を宣言し、キリストと共に立つことによって、私たちに対する悪はもはや無力であると宣言します。

私たちは全ての新しい信者に、信仰を公にし、神に属する者となったしるしとして、水のバプテスマを授けます。家族の頭が最初にバプテスマを受けると、その家族は守られ、お互いに育ち合えると信じます。

6 「平安の子」と共に行き、その家族や友人に福音を伝える

私たちは、神は革命を起こすために、この世の関係を造られたと信じています。聖霊に導かれて信仰を持った「平安の子」は、神との出会いのパターンに従います。自分と神との出会いを家族や友人に分ち合うことで、そのパターンに従うのです。

神を礼拝し、御言葉に従うことで、霊的革命の火に油を注ぎます。真の神との出会いは、周囲の人々にも広がっていきます。私たちは、神に飢え乾いた「平安の子」を見つけることに専心し、彼らに神を紹介し、彼らが自分の家族や友人にもその経験を広めるように教えます。

神に飢え乾いた人々のところに、神の国は来ます。そして尊敬し信頼され、自分が影響を与えることのできる全ての人に福音が伝わっていきます。

神は人々との出会いを望んでいます。霊的革命の火を広げる人々、神に飢え乾いた人々に、ご自分を現したいと待ち望んでいます。

VII 七つの原則

霊的革命の種は、世界中に蒔かれています。この世の誘惑に負けることのない、子羊の生ける証し人となる情熱を持った人々の心と思いに、霊的な土台はすでに据えられています。

私たちは教会です。私たちは、キリストの血潮によって一つとなり、聖霊によって優しく導かれる普遍的な信者の集団に属しています。

私たちは、礼拝を捧げている建物のドアを開けて、この世に出て行く時が来ていることを悟らなければなりません。それは、人々が私たちの受け取った希望を望みつつも、私たちの集まりにはほとんど来ようとしないからです。私たちの方から人々のところに行かなければならないのです。

私たちはもはやこれ以上、救いやきよめ、新しい道を必要としている人々に、この最も大切なことを隠しておくべきではありません。

私たちは「五つの真理」を中心として生き、ルカ10章の六つの命令に従って歩みます。その時に私たちを導き成長させ、世界中に教会を拡大させる七つの原則が、新約聖書には挙げられています。

1. 教会は私のまわりから始まる。
2. 教会は家（日常生活の場）で集まる。
3. 教会には神が立てられたリーダーがいる。
4. 教会は生物のように再生産する。
5. 教会は拡大された家族との関係を持つ。
6. 教会は家族から家族へ世界的に広がる。
7. 教会は壊れることはなく、やがてキリストと共に統治する。

1 教会は私のまわりのから始まる

イエスは世界を変えました。イエスは群衆に語りかけましたが、信者の小さな群れから教会を始めました。3年間、イエスはほとんどの時間を12人の弟子と共に学び、成長することで費やしました。イエスは信者としての基本的な生活パターンを実践することで、弟子たちに教えました。キリストは今も生きていますし、変わることはありません。2000年の間、イエスは同じパターン（多くの人と福音を分かち合うこと、

ギリシャ語で「オイコス」という小さな信者の群れを増やしていくこと)によって、教会の数を急速に増やしました。

私たちもまた、世界を揺り動かしてきた同じパターンに従います。今もその時と同じように、教会の基本的な単位は、お互いの関係を成長させ、そこに神を経験した人々の中心核グループです。

家族や友人は、教会の出発点の中心核となるものとして、神が私たちに与えたものです。真の霊的交わりの中で、イエスに与えられたパターンに従ってお互いに奉仕する時、霊の賜物、新しい歌、励ましの言葉、癒し、力などが全て与えられます。

霊的革命の火は私たちの核から始まります。そして、一つの核から別の核へと野火のように広がっていきます。しかしその根は、決して壊れることのない深く強い関係によって結ばれています。

2 教会は家(日常生活の場)で集まる

新約聖書時代の教会では、キリストとその御国について学ぶために共に集まりました。信者たちは信者の群れと共に、この世にあっても御国に生きるような生活をし、家から家へと移動して集まりました。まるで自動的な連鎖反応のように、彼らは集まり、共に祈り、お互いのために犠牲を払ったのです(使徒2:42-47、5:42)。

時を経て教会が公認となり、信者たちが家々で集まることをやめて決まった建物に集まるようになってからは、霊的革命は無気力なものになっていきました。

私たちは建物に属するのではなく、キリストに属する者です。家々で(あるいは自分たちが普段の生活の中で自然に集まる場所で)神が委託されたものにより、私たちは集まって互いに燃やされるのです。

私たちが共に集まる時、お互いの重荷、心配ごと、勝利を分かち合います。神の言葉を分かち合い、神に聞き、お互いを通して神に出会うことを期待します。私たちは、お互いの霊的ケアに対して責任があることを認め、この「ハウス・チャーチ」で水のバプテスマと主の晩餐を自由に行うことができます。

私たちの集会は、その時の状況によって自由に形を変えていきます。私たちは共に礼拝し、公の場所でも、個人的な生活の場所においても、キリストのように生きられるよう、お互いに励まし合います。

しかしながら、私たちは自分自身のことによって時間を費やすことには満足しません。神が、まだ証しのされていない所や、神が礼拝されていない地域に私たちを導いて下さるよう、求めています。

3 教会には神が立てられたリーダーがいる

私たちは、良い関係ができている核には、神が立てられたリーダーがいると信じています。使徒の16章31節では、主イエス・キリストを信じるならば、私たちの核全体（私たちの家族や友人）は救われると言っています！そして全ての教会には、神が立てられたリーダーがいます。

私たちは、正式的な教育や訓練を受けたリーダーたちの指導や教えに感謝しています。しかし、家族や友人が神と出会うために私たち自身が果たすべき責任も、ないがしろにすることはありません。実際、私たちは、神が全ての人に油を注ぎ、彼らが影響を与えられる人々（彼らの核）を救いに導くと確信しています。

それぞれの核が共に集まる時、彼らはつぎのことをします。

- 礼拝—イエスを中心にした礼拝をします。
- 従順—神の言葉と神との交わりの中で与えられる啓示に従います。
- コミュニティー御言葉から学んだことを分かち合い、神の超自然的な賜物を用いて、お互いのために奉仕し、関係を築きます。
- 弟子づくり—キリストのようになるため、お互いを訓練します。

共に集まる時、私たちは言葉や歌を通して王なるイエスを礼拝します。それから、超自然的な神からの啓示を待ちます。私たちは神との出会いを期待します。なぜなら、天の父はその子供たちと交わりを持ちたいと願っていることを知っているからです。

しばしば、神は礼拝の中で、知恵の言葉、知識の言葉、霊の歌、癒し、奇跡や超自然的なしるしを通して、御心を現します。それは、限りあるこの世に神が介入される、霊的「ブレイクスルー」なのです。私たちは、神が語りかけることを歓迎し、信頼します。

まだ神のことを知らずにいる人々に対し、神は熱い思いを燃やしています。ですから、私たちは、友人、地域の人々、国民、また世界中の民族や国々について、神が語りかけることを期待しています。

神は今も働いています。そして、私たちは啓示を通し神の働きに加わります。私たちは、全ての指導や励ましを、御言葉、祈り、そしてお互いへの責任によって評価します。

神が語る時、私たちは従います。私たちは啓示を心に深く書きとめ、それに従います。神の言葉に従わなければ、神は私たちを深く信頼することはないと知っています。

お互いに対する責任は、神に対する責任の次に大切なことです。私たちは高いレベルの責任でお互いに関係を持ち、謙遜と僕の精神を土台とした関係をさらに築いてい

きます。

神は、国々を弟子とする命令を、私たちに与えています(マタイ28:18-20)。私たちはこのことをお互いから始めます。私たちは、イエスの前に自分の命を差し出して、自分を洗いきよめ、お互いへの思いを純粋なものとして下さるよう求めます。

私たちは、仲間から始まった神との出会いの経験が、友人や家族に至るまで、自分たちの核が訓練されることに専念します。国々に対する神の召しを、常に喜びをもって、全てを犠牲にして、神の働きに加わることを思いをこめて、熱心に聞きます。

4 教会は生物のように再生産する

霊的革命は、私たちの核グループから始まり、この世に対する神の心をとらえた時に成長します。

私たちは「イエスの方法」に従っていくことに確信を持っています。どこに行っても、自然的な関係の絆を探し、神の国の素晴らしさを伝えていきます。どのようにして、この運動を広げるのでしょうか。私たち一人一人が、核の一部としてその霊的なリーダーに従い、お互いの関係を大切にします。定期的に集まり、神に出会い、神の導きに従い、お互いに対する責任を大きくします。

私たちには、友人や家族がキリストの大宣教命令を達成できるように励ますことによって、自分たち自身の核を導き成長させる責任があります。私たちは励まし養い、先輩や助言者に意見を聞いたり、共に手を差し伸べたりして、鎖のようにこの関係を持ち続けるのです。

- 新しい信者を霊的に養い、励まし、責任を持つ。
- 霊の親や良き助言者たちに聞く。
- 神の国を広げるため、この世に対し共に手を差し伸べる。

人々が福音を受け入れる時、私たちは喜びます。御国を建て上げ、キリストによる新しい兄弟姉妹たちと共に祈り、彼らがこの関係の中で聖霊の養いを受けて成長することを信じます。

私たちは、遠くから怒鳴って命令を下すようなリーダーのいる組織や会社ではありません。兄弟、姉妹、おじ、おば、父、母、祖父母のいる霊的な家族として関わります。

私たちは家族と共に成長しますが、常に「キリストにあって」ということを第一とします。そして、各々のメンバーが自分自身の霊の家族を造ることを認めます。共に集まり、キリストへの信仰と神の家族としての遺産を祝う時、私たちは喜び、礼拝し、

祝い、神とお互いのために自身をきよめ捧げます。

私たちが互いにへりくだり、家々で、また日常生活の中の他の場で集まる「教会」を重んじ、霊の親を敬い、影響を与えることができる人々をキリストに導くことにチャレンジし、立ち上がり働く時、真の霊的革命は始まります。

5 教会は拡大された家族との関係を持つ

私たちは、この世界に霊的革命の火をつけることに自分自身を捧げています。この使命が神によって与えられ、神は私たちからの応答を待っていると信じています。

王なる神とその御国を宣言し、私たちが会おう「平安の子」との深く曇りのない関係を発展させます。私たちは、自分たちの自然的な核や、影響を与えられる地域に福音を広げていくため、霊的革命の火に油が注がれていることを信じます。

ルカ10章7節の教えに従い、私たちは現在の自然的な関係を深めることや、私たちが会おう「平安の子」との関係を深めることを大切に考えます。神が御国を広げていくため、このような家族の結びつきを通して働かれることを、私たちは知っています。

私たちはみな、私たちが仕え、私たちを共に支え、私たちをその御姿につくり変えて下さる唯一人の方のゆえに結ばれています。私たちは、お互いへの強い責任関係を邪魔する組織的な束縛や、団体や組織の中で歯車として信仰を広めていくことを拒否します。

私たちが血縁による家族、親戚関係の中で生まれたように、私たちの「新生」もまた、お互いに対する責任と結びつきを維持する霊的家族に属しています。

唯一人の永遠の父と、私たちの兄であり救い主であるイエスと共に、支え合い、敬い合い、まだ会ったことのない人々であっても私たちの霊の家族に迎えます。彼らは異なる国に住み、異なる言葉を語り、特有の習慣を持っているかもしれませんが。それでも、私たちは同じ霊的遺産を受け継ぐのです。

6 教会は家族から家族へ世界的に広がる

ルカ10章の物語は、イエスが弟子たちに新しい村に行こうと告げる場面から始まります。聖書のこの部分や他の多くの部分からも、出て行くことと成長することは、神の国でも自然にある事だとわかります。

私たちは、神による霊的革命のために礼拝をします。しかし、家族による自然な関係によって成長します。異なった地域から来た信者と出会っても、私たちは共通する

靈的な関係を持ち、「家族的」な絆を造り上げます。

こうした家族的な関係は、教義的な真理よりも大切にします。なぜなら、私たちには神に対する責任と、自分自身の霊の父たちに対する責任が要求されているからです。

主が語る時、私たちは、神の栄光を私たち自身の核や国の中で宣言します。そして、神が下さった「靈的遺産」の豊かさを経験し始めます。キリストに属する他の人々に出会った際にも謙虚に学び、さらに大きな神の家族に属するようになるのです。

もしも私たちがキリストの御国を伝えるため、暗闇に光をもたらすために遣わされるならば、私たちを送り出した人々と、これから私たちが語りかける相手とを結び合わせます。

しかし、「平安の子」には、組織的な結びつきによる重荷を与えたり、成長を妨げたりすることなく、自分たち自身の核の中で神の教会が早く形成されるよう、気を配らなくてはなりません。

私たちはこのように、新しい家族を靈的に育てます。そして、新しい家族各々が、自分たちに対する神の目的と召しを見出すことを認めています。

7 教会は壊れることはなく、やがてキリストと共に統治する

イエスは、悪の力と悪の知恵が教会に打ち勝つことはない、と宣言しました(マタイ 16:18-19)。家族として関わり、また神とお互いへの責任から来る恵みと力によって結ばれているならば、今日の教会は神の命令を達成しつつあるのです。

キリストの主権のもとで、私たちは使徒パウロの言葉を確信を持って語ることができます(ローマ 8:35-39)。

「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。『あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。』と書いてあるとおりです。しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

決断

神はこの世において、多くの人々に霊的革命の火を起こしています。神はあなたに対しても同じように命じています。あなたにとって、今という時が主の召しに答える時なのかもしれません。以下の決断をすることによって、あなたもこの革命家たちのネットワークに加わりませんか。

- 五つの真理を生きる
- 六つの命令で歩む
- 七つの原則に従う

「愛する天の父よ、私は成功を求める自分の計画をあなたに委ねます。それがあなたの喜びとなりますよう、変えて下さい。過去を打ち砕き、今までの日常生活を打ち壊して下さい。あなたの臨在の大いなる喜びを見出すため、私は全ての夢と野望を否定し、本来自分の権利であるはずの物事をあきらめます。私はあなたの兵士です。前線であなたの指示を待っています。霊的革命が私の内より始まりますように。イエスの御名によって、アーメン。」

サイン _____ 日付 _____

お問い合わせ先：

インパクト・ジャパン

〒224-0041横浜市都筑区仲町台3-18-4

電話/ファクス: 045-942-5373

メール: mail@impactjapan.org

ホームページ: www.harvestimpact.org

このブックレットをどうぞご自由にお配りください。